

「生活設計とリスクへの備え」

授業展開案（50分）

1. 学習のねらい

- ・家庭生活に影響を及ぼすリスクの存在について知る
- ・リスクに備える方法として、公的保障・私的保障についてそれぞれの役割を学ぶ
- ・代表的な私的保障である、預貯金と保険について理解を深める

2. 授業の概要（50分）

概要	学習内容とねらい
導入 (10分)	I.生活設計とお金 ～将来について考えてみよう～ ★人生にはさまざまなライフイベントがあり、それぞれお金が必要であることを認識する
展開① (10分)	II.リスクへの備え ～3つの保障を理解しよう～ ★人生には様々なリスクが潜在していることを知る。またリスクに備える方法について学ぶ
展開② (20分)	III.公的保障と私的保障 ～国からのサポートと自分たちで準備するもの～ ★公的保障の中の社会保障制度について学ぶ ★代表的な私的保障である預貯金と保険について、そのしくみと特徴を理解する
まとめ (10分)	IV.まとめ ★授業のふりかえりをする

3. 授業形式

- ・パワーポイントと生徒用ワークシートを用いた講義形式

4. 準備物

- ・生徒用ワークシート（WS）
- ・パソコン（パワーポイントが使える環境のもの）
- ・プロジェクター
- ・スクリーン
- ・筆記用具（生徒）

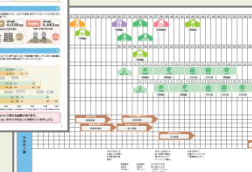
授業時間が **50分以上** の場合や、授業展開案（50分）の内容を**補足**したい場合は・・・

50分授業セット
「生活設計とリスクへの備え」
※本教材



生徒用ワークブック「君とみらいとライフプラン」

※教員用手引書・パワーポイントデータもご用意しております



5. 授業展開（詳細）

時間	内容	備考	スライド																																
導入 10分	<h3>I. 生活設計とお金</h3> <h4>○将来を考える【WS】穴埋め</h4> <p>★問いかけをしながら自分の将来を連想させる</p> <h4>○さまざまなライフコース【WS】</h4> <p>★人生を俯瞰したフローチャート図で具体的に将来を想像させる</p> <h4>○さまざまなライフイベント</h4> <p>★代表的なライフイベントを示し、それぞれお金がかかることを確認する</p> <h4>○ライフイベントにかかる費用①</h4> <p style="text-align: right;">【WS】穴埋め</p> <p>★具体的にどれだけお金がかかるのか三択クイズを使って紹介する</p> <h4>○ライフイベントにかかる費用②</h4> <p style="text-align: right;">【WS】穴埋め</p> <p>★自分にもたくさんのお金がかかっていることを認識させる</p> <h4>○まとめ①【WS】穴埋め</h4> <p>★★★生活設計は資金計画とセットで考える必要があることを理解させる</p>	<p>【用語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフコース：人が一生の間にとる道筋のこと ・ライフイベント：人生の節目となる出来事のこと <p>(Q) 三択クイズは挙手を求める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金額はあくまで平均であることを補足する 	<p>将来を考える</p> <p>将来の目標を持っていますか？</p> <p>・卒業後はどうしたい…？ ・どんな職業に就きたい…？ ・結婚したい…？ ・子どもはほしい…？</p> <p>生活設計とは、自分の将来について具体的に考えること</p> <p>さまざまなライフコース</p> <p>それぞれの生き方を「ライフコース」とよぶ</p> <p>さまざまなライフイベント</p> <p>進学 (1人暮らし) 結婚</p> <p>親になる 住宅購入</p> <p>ライフイベントにかかる費用①</p> <p>Q1011 結婚にかかる費用はどれくらい？</p> <p>A.約200万円 B.約400万円 C.約500万円 【答え】 C.約500万円 → (48%) 48.1%の回答</p> <p>Q1012 1人暮らしを始めるのに必要な費用はどれくらい？</p> <p>A.約2,000万円 B.約4,000万円 C.約6,000万円 【答え】 B.約4,000万円 → (48%) 41.1%の回答</p> <p>ライフイベントにかかる費用②</p> <p>Q1013 3人暮らし一人にかかる費用はどれくらい？</p> <p>A.約800万円 B.約1,000万円 C.約1,200万円</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>約800万円</th> <th>約1,000万円</th> <th>約1,200万円</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼稚園</td> <td>85</td> <td>150</td> <td>243</td> </tr> <tr> <td>小学校</td> <td>198</td> <td>309</td> <td>517</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>147</td> <td>477</td> <td>350</td> </tr> <tr> <td>高校</td> <td>137</td> <td>281</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>大学</td> <td></td> <td></td> <td>2,357</td> </tr> <tr> <td>大学院</td> <td></td> <td></td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td>200</td> </tr> </tbody> </table> <p>まとめ①</p> <p>●生活設計と資金計画は、セットで考える必要がある。</p>		約800万円	約1,000万円	約1,200万円	幼稚園	85	150	243	小学校	198	309	517	中学校	147	477	350	高校	137	281	95	大学			2,357	大学院			95	合計			200
	約800万円	約1,000万円	約1,200万円																																
幼稚園	85	150	243																																
小学校	198	309	517																																
中学校	147	477	350																																
高校	137	281	95																																
大学			2,357																																
大学院			95																																
合計			200																																
展開① 10分	<h3>II. リスクへの備え</h3> <h4>○リスクとは何か【WS】書き込み</h4> <p>★リスクとは何か、普段の生活の中でどんなリスクがあるかを想像させ、発生すると経済的な損失を被ることを認識させる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資金計画を立てていても「予期せぬこと」が起きて計画が狂ってしまうかもしれないと展開する ・想像させた普段の生活の中にあるリスクはWSに書かせる。 <p>【用語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスク：予想できない事態により経済的損失や不利益を被る可能性のこと 	<p>リスクとは何か</p> <p>リスクとは— 起きてほしくないことで、お金とお金がかかること</p> <p>交通手段 財布を紛失 自転車の盗難</p> <p>スマホを紛失 病院で入院</p>																																

○生活設計に重大な影響を与えるリスク

【WS】穴埋め

★リスクの発生データを紹介し、生活設計に重大な影響を与えるリスクも、少なからず発生していることを認識させる

○リスクに直面した高校生の事例

★リスクが他人事や将来のことではなく、身近なことだと認識させる

★★★自分の心がけである程度リスクを避けられることを説明する

★★★ただし、リスクを避けられず、多くの費用が発生する可能性もあることを認識させる

○リスクに備える3つの保障【WS】穴埋め

★リスクに対する経済的な備えとして、公的保障、企業保障、私的保障（3つの保障）があることを説明する

○まとめ②【WS】穴埋め

★★★リスクに対して3つの保障があること、公的保障と企業保障で不足する部分を私的保障で補完することを伝える

(Q.) 損害賠償額は、生徒に答えさせてもよい

- 事例で言えば、交通ルールを守っていれば事故は起きなかった(リスクは避けられた)
- このような避けられないリスクはどうすればよいか?と問いかけ次スライドに展開する

【用語】

• 保障：ある状態が損なわれないように守るもの(もしものときに生活を守るもの)

生活設計に重大な影響を与えるリスク

交通事故	入院入院	死亡
A. 全道警察の 交通事故発生数 430,491件/年 → 約730件/1件	B. 1日平均 の入院患者数 44,852人/日 → 約220人/1人	C. 60歳までで て死亡する割合 男性 約9人に1人 女性 約13人に1人

リスクに直面した高校生の事例

男子高校生が授業中、自転車通学中に歩道の歩道から横断歩道の横断歩道を横断中、対向車線に逸脱してまたがり衝突(24歳)と発生。
男性が社会に重大な損害(真顔損傷の喪失等)が発生。

賠償額 → 9,266万円

リスクに備える3つの保障

保障：もしものときに生活を守るもの

リスク

- 公的保障 (社会保険制度(社会保険等))
- 企業保障 (死亡退職金等)
- 私的保障 (民間) 保険 (預貯金)

まとめ?

- 生活設計と資金計画は、セットで考える必要がある。
- リスクに対して3つの保障手段で備えることができる。
- 公的保障と企業保障で不足する部分を私的保障で補う。

展開②
20分

Ⅲ.公的保障と私的保障

○社会保障制度の概要【WS】穴埋め

- ★代表的な公的保障である社会保障制度が4つの柱からなることを説明する
- ★社会保険の保障内容について簡単に説明する

- 社会保障制度：国民の安心や生活の安定を支えるセーフティネット
- 社会保障制度のうち、「リスクへの備え」としては社会保険が中心になる
- 詳細な説明は避け、社会保険から様々な保障を受けられることを伝えられればよい

社会保障制度の概要

社会保険	公的扶助	社会福祉	公的扶助	社会福祉
1. 公的医療保険 → 病気やケガに備える	2. 公的年金保険 → 老後の生活に備える	3. 公的介護保険 → 高齢者の生活に備える	4. 児童手当 → 子育てに備える	5. 雇用保険 → 失業に備える

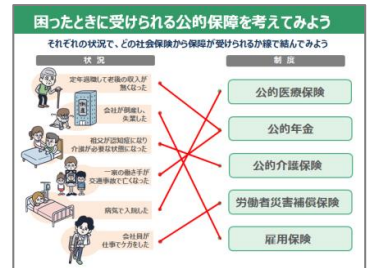
○【発展課題】困ったときに受けられる公的保障を考えてみよう

【WS】

※グループで考えてもよい

※発展課題として、時間があれば解かせる

★それぞれの状況で、どの社会保険から保障が受けられるか具体的に理解する



○リスクに備える3つの保障

★私的保障の代表的なものに預貯金と保険があることを再度確認する

○預貯金と保険①

★預貯金と保険のしくみを理解する

・保険とは、保険会社に保険料を支払うことで、リスクが起きたときに保険金を受け取れる契約である

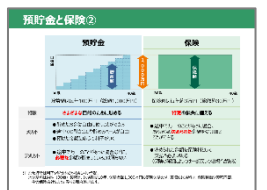
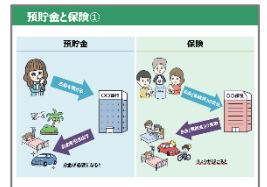
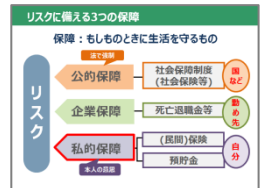
○預貯金と保険②【WS】穴埋め

★預貯金と保険の性質の違い、それぞれのメリット、デメリットについて説明する

★★★預貯金と保険どちらがよいか、ではなくそれぞれの特徴を押さえた使い分けが大事であることを認識させる

○保険のしくみ①②

★保険のしくみについて単純化した例で説明する

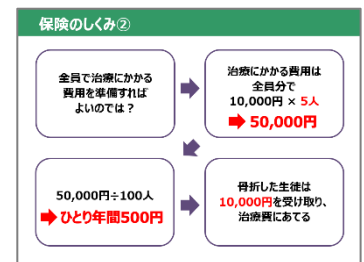
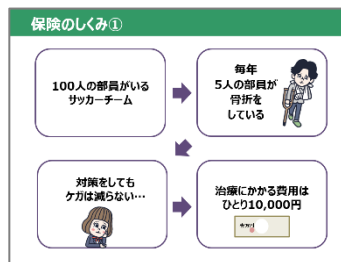


<ストーリー・スクリプト>

- ・100人の部員がいるサッカーチームがある
- ・毎年5人の部員が骨折すると仮定する
- ・対策をしてもケガは減らない
- ・治療には費用がひとり1万円かかる

(次スライド)

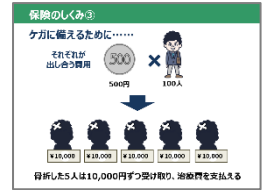
- ・そこである部員が思いついた「全員であらかじめ治療にかかる費用を準備しておけばよいのでは」
- ・治療に係る費用はチーム全体で1万円×5人=5万円
- ・5万円を100人で準備すればよいので、5万円÷100人=ひとり年間500円
- ・骨折した生徒は1万円を受け取り、治療費にあてることができる



○保険のしくみ③

★単純化した例を、一つの図で示し、理解を深める

・全員が少しの負担でリスクに備えることができると補足する



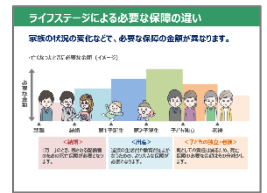
○生命保険と損害保険【WS】 穴埋め

★保険には、生命保険と損害保険があり、保険をかける対象が違うことを説明する



○ライフステージによる必要な保障の違い【WS】

★ライフステージによって必要な保障の金額が変わること、それにより定期的に必要な保障・備えなければならぬリスクについて見直す必要があることを説明する。



【参考】生活設計と生命保険

★生命保険はリスクに応じてさまざまな種類があることを説明する。

・以下【参考】のスライドについては必要に応じて活用する。



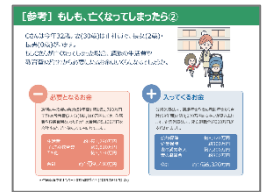
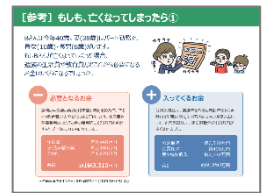
【参考】足の骨折で入院したら

【参考】もしも、亡くなってしまったら①

【参考】もしも、亡くなってしまったら②

★具体的な事例を通して公的保障と私的保障の補完関係を理解する

・もしも、亡くなってしまったら①は妻がパート、②は妻が正社員、で働いている家庭で、世帯主（夫）が亡くなった場合の事例



○まとめ③【WS】 穴埋め

★★★家族構成や年齢などによって必要な保障が異なるため生活設計に応じてリスクへの備えを考える必要があることを説明する。

- 生活設計と資金計画は、セットで考える必要がある。
- リスクに対して3つの保障手段で備えることができる。
- 公的保険と企業保険で不足する部分を私的保険で補う。
- 家族構成や年齢などによって必要な保障は異なる。生活設計に応じて、リスクへの備えを考えよう。

まとめ 10分	IV.まとめ ○まとめ ★学んだ内容のポイントをふりかえる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; margin: 0;">まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生活設計と資金計画は、セットで考える必要がある。 ● リスクに対して3つの保障手段で備えることができる。 ● 公的保障と企業保障で不足する部分を私的保障で補う。 ● 家族構成や年齢などによって必要な保障は異なる。 生活設計に応じて、リスクへの備えを考えよう。 </div>
------------	---	---

本教材は、高等学校家庭科の学習指導要領の項目および教科書の単元に対応しています。

6. 本教材における高等学校家庭科学習指導要領との対応

現行版	平成 21 年 3 月告示 高等学校家庭科学習指導要領「家庭基礎」
<p>(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉 ア 青年期の自立と家族・家庭 イ 子どもの発達と保育 ウ 高齢期の生活 エ 共生社会と福祉</p> <p>(2) 生活の自立及び消費と環境 ア 食事と健康 イ 被服管理と着装 ウ 住居と住環境</p>	
<p>エ 消費生活と生涯を見通した経済の計画</p> <p>消費生活の現状と課題や消費者の権利と責任について理解させ、適切な意思決定に基づいて行動できるようにするとともに、生涯を見通した生活における経済の管理や計画について考えることができるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【学習指導要領解説 家庭編】</p> <p>生涯を見通した経済の管理や計画については、家計の構造、家計における収支バランスや計画性にとどまらず、将来にわたるリスクを想定して、不測の事態に備えた貯蓄や保険などの資金計画についても関心を持たせる。</p> <p>(イ) 生涯の経済計画とリスク管理</p> <p>生活の基盤としての家計管理の重要性や家計と経済のかかわりなどについて理解させ、経済計画とリスク管理の必要性について考えさせる。・・・また、生涯を見通した経済の計画を立てる場合には、事故や病気、失業などの不測の事態や退職後の年金生活なども想定し、生涯賃金や働き方なども含め、リスクにどのように対応したらよいかについて考えさせる。</p> </div>	
<p>オ ライフスタイルと環境 カ 生涯の生活設計</p> <p>(3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動</p>	

7. 本教材にかかわる新学習指導要領の改訂点

- ・生活設計の取扱いについて、まとめとしてだけでなく、科目の導入と位置付けること、学ぶ内容と関連付けることとなった。
- ・「将来にわたるリスクを想定して、不測の事態に備えた対応などについても触れること」について、解説での記載（現行）から、学習指導要領本体への記載（新学習指導要領）へと変わった。
 ※解説では、リスクへの対応として「預貯金、民間保険」等の資産形成の視点にも触れるようにすることとなっている。

改訂版

平成 30 年 3 月告示 高等学校家庭科学習指導要領「家庭基礎」

A 人の一生と家族・家庭及び福祉

- (1) **生涯の生活設計** (2) 青年期の自立と家族 (3) 子供の生活と保育 (4) 高齢期の生活と福祉

(5) **共生社会と福祉**

ア 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解すること。

イ 家庭や地域及び社会の一員として自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について考察すること。

【3 内容の取扱い (1) 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。】

ウ (5) については自助、共助及び公助の重要性について理解できるよう指導を工夫すること。

【学習指導要領解説 家庭編】

社会的制度、社会福祉の基本的な概念、共に支え合って生きる社会の考え方について理解できるようにする。・・・自立的な生活と、家族や学校、地域の人の支え合いなどの身近な環境、また国や自治体などの制度やサービスなどの制度としての支援体制という支え合いの構造について理解する。加えて、自助・共助及び公助の概念だけでなく、互助も含めたつながりについて理解できるようにする。

B 衣食住の生活と自立設計

- (1) 食生活と健康 (2) 衣生活と健康 (3) 住生活と住環境

C 持続可能な消費生活・環境

(1) **生活における経済の計画**

ア 家計の構造や生活における経済と社会の関わり、家計管理について理解すること。

イ 生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などに関連付けて考察すること。

【3 内容の取扱い (2) 内容の範囲や程度について】

ウ Cの(1)のイについては、将来にわたるリスクを想定して、不測の事態に備えた対応などについても触れること。

【学習指導要領解説 家庭編】

家計管理については、・・・事故や病気、失業などヘリスクへの対応が必要であることを取り上げ、預貯金、民間保険、株式、債券、投資信託等の基本的な金融商品の特徴(メリット、デメリット)、資産形成の視点にも触れるようにする。

生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性については、・・・また、将来を見通して、事故や病気、失業、災害などの不可避的なリスクや、年金生活へのリスクに備えた経済的準備としての資金計画を具体的な事例を通して考察できるようにする。

- (2) 消費行動と意思決定 (3) 持続可能なライフスタイルと環境

D ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動

8. 高等学校家庭科 教科書との対応

教師用引き「君とみらいとライフプラン」1ページをご参照ください。

□監修

大藪 千穂（岐阜大学教育学部 教授）

□編集協力（50音順）

（所属は2017年3月時点）

秋田 一早（大阪府立岸和田高等学校）

池垣 陽子（埼玉県立大宮光陵高等学校）

石坂 美樹（青山学院高等部）

稲葉 ゆかり（大阪府立芥川高等学校）

内田 文子（東京都立三鷹中等教育学校）

川邊 綾子（海城中学高等学校）

小籠 純子（園田学園高等学校）

田中 和子（奈良県立磯城高等学校）

竝川 幸子（京都府立洛北高等学校）

榎府 暢子（国立東京大学教育学部附属中等教育学校）

新村 恭子（東京都立忍岡高等学校）

西田 恵理（大阪府立茨木西高等学校）

三野 直子（東京都立竹早高等学校）

若月 温美（東葉高等学校）